

<認知症対応型共同生活介護用>

<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1472602786
法人名	株式会社 良観
事業所名	グループホーム ぽっかぽか
訪問調査日	平成28年12月16日
評価確定日	平成29年3月29日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は20項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472602786	事業の開始年月日	平成17年4月1日	
		指定年月日	平成17年4月1日	
法人名	有限会社 良観			
事業所名	グループハウスぽっかぽか			
所在地	(〒252-0246) 神奈川県相模原市中央区水郷田名 2-20-14			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成28年9月1日	評価結果 市町村受理日	平成29年3月31日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の将来の為に意識し日々行動している

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成28年12月16日	評価機関 評価決定日	平成29年3月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>①グループホームぽっかぽかは有限会社良観の経営です。グループホーム「ぽっかぽか」は、社長自身が介護に関する熱い思いの実現に向けて平成17年2月に設立しました。グループホーム運営では自ら現場に入り、率先して、職員を督励しつつ名前の通り温かい家庭のようなグループホームを実現しています。生活保護受給者を入居対象とし『ともに老い、ともに暮らす』を信条とし、「介護とは何か」「そのサービスはこのグループホームに合ったものなのか」を常に模索し、現場に落とす事で利用者と職員が共に喜びを感じられるよう常に努力しています。</p> <p>②このグループホームはJR「相模原駅」から水郷田名行きのバスに乗り、終点から徒歩2分程の場所にあります。春には桜、五月には大量の鯉登りで楽しめる相模川堤防がホーム近く、環境に恵まれた所です。事業所の理念に「利用者の望みを知り、一つひとつ確実に実現する事で社会に貢献する」を掲げています。「入居者一人ひとりの将来を意識しその人の残存能力を最大限活かす事で寝た切りにしない」との代表者の強い思いのもと、全職員で理解共有して日々の支援を行っています。地域とのお付き合いでは、ご近所にお住いの方々との散歩時の挨拶を交わしたり、町内会主催の様々な行事(祭り・運動会等)への参加で連携を深め、運営推進会議でも地域の方との情報の交換を行い、地域の方々との交流を図っています。</p> <p>③サービス提供面では「出来る人に出来る事をやって貰う」の自立支援に注力し、排泄の自立の他、食事作り手伝い・掃除・洗濯など出来る事をやってもらい、達成出来たら言葉で感謝を最大限に表し、役立っていることを感じて頂く様にし、ご家族からも喜んでもらっています。利用者の思いに沿った支援の一つとして、終の棲家とした「看取り介護」を、本人・家族の望みに沿って医師、事業所責任者との検討のもとで、指針に沿って実施しています。グループホーム内は利用者を始め管理者、職員のは笑顔があふれ、利用者を第一と考えてのケアが展開されています。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム ぽっかぽか
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月1回と必要に応じて行っている	理念は「利用者の望みを知って、その一つひとつを確実に実現する事で社会貢献を果たします。」であり、「入居者が家庭的な環境の下に自ら生きる力を最大限引き出させる生活援助支援を行う」を方針として管理者をはじめ全職員で利用者が日々生きるを感じながら暮らせるように計画に沿った支援を実践しています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流月2回と毎日の散歩で行っている	事業所では利用者がこれまでに過ごして来た暮らしが継続して出来るよう、天気の日には毎日散歩に出かけ、地域の方と挨拶して交流し、時には花や野菜を頂いたりしています。また、自治会主催の運動会やお祭り等にも参加をし、地域交流を図っています。県央地区のグループホーム連絡会には管理者が出席し情報交換を行っています。また、地域の定期消防避難訓練にも参加し、地域の一員として周囲の方から支えられています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の交流の中で行っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回行っている	2ヶ月に1回自治会々長、民生委員、相模原市役所職員、ホーム長、社長の参加で運営推進会議を行っています。会議ではホームの運営状況と今後の運営に関する思いや行事予定などを報告し、参加者から支援の方法等についての質問、意見、助言、提案も頂き運営に反映させ、サービス向上に活かしています。議事録を作成し、全職員に周知し、ホームと地域の一体感を認識出来るよう努めています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて行っている	ホームは生保受給者を受け入れていて市役所窓口（高齢者相談課）職員とは入居状況等の情報交換の他、用件に応じて不明点・疑問点等、法的手続き等を聞いたり相談をし、入居者支援に活かしています。事業所からは施設の様子や課題等についても伝えています。また、研修会の案内なども頂き職員の参加でスキルアップに繋げています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎日行っている	運営規定並びに契約書に「身体拘束その他か行動の制限は行わない、緊急や無得ない場合は家族に連絡了承を得てマニュアルに沿った対応をする」と記し、それを遵守しています。身体拘束・虐待禁止についてのマニュアルや事例に基づいた職員への研修を行ない、日頃の言葉かけを始め、禁止行為とそのデメリットを共有認識して常に安全面についてミーティングを行っています。玄関は原則開錠とし、徘徊行動などの兆しが見えたら職員のマンツーマンでの見守りで対応し、利用者に安心と安らぎのある暮らしを提供しています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月1回と必要に応じて行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月1回と必要に応じて行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要に応じて行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	必要に応じて行っている	日常生活上の苦情や意見は入居者から直接聞き、家族からは面会時や電話などを通じて、管理者をはじめ職員から日常的な利用者の生活状況の報告をしてコミュニケーションを密にし、意見等も伺うようにしています。また、運営推進会議時にも意見、苦情等も伺がい、記録に残し職員会議等で検討をし、最終窓口は社長にして統一を図り回答と共に運営に反映するようにしています。毎年1回利用者満足度調査も行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回と必要に応じて行っている	事業所では職員の日々の観察に基づく気づきや意見提案を月1回行われるフロア会議で「会社への要望」として自由に表出ができる様にしています。また、管理者と職員間は日頃から気軽に話せる関係も構築されていて、意見や提案を聴いています。更に気分を変えたレクリエーションなどを通じてコミュニケーションを深める機会を設けて、意見の収集を行って運営に反映して職員がさらなる向上心を持って働けるよう努めています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月1回と必要に応じて行っている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回と必要に応じて行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	必要に応じて行っている		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々のコミュニケーションの中で必要に応じて行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必要に応じて行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日々のコミュニケーションの中で必要に応じて行っている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日行っている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日行っている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	必要に応じて行っている	入居者が大切にして来た馴染みの人との関係を損ねない様、気兼ねなく訪問して頂けるよう配慮しています。ご家族が近所に住んでいる利用者が多く、お子さんや兄弟が飼っていた犬と共に尋ねて来ます。他の人の利用者のお客さんとの楽しかった出来事から、「今の思いを知って」出来るだけ、思いに沿った支援を、家族の協力を得て、実現への支援等も行っていきます。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日行っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて行っている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日行っている	思いを伝える事が出来る人と出来ない人がいますが、本人の生活歴などを参考にして今の思いを知るように努め、会話や日頃の「仕草や表情」からの汲み取りに加え、家族等からの情報も加味して思いを押し量って職員間の共有を図り、本人本位を第一として「お墓参り」「住んでいた家への訪れ」等、思いが叶えられるよう支援に努めています。その他、友人の訪問受け入れ、電話連絡等の支援も行っています。但し「出来る事、出来ない事」も説明して理解をして頂く様にし、モニタリングで思いに沿っているかをよく確認しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	毎日行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回と必要に応じて行っている	利用当初は計画を立てて様子を見ます。通常6ヶ月或いは短期では3か月での見直しをして変化のある場合は都度の見直しを基準としています。毎月の全体会議で日々の観察に基いた意見を述べ合って計画作成者を中心に家族の要望等も聞いて、その方に残された能力に見合った計画を作成しています。出来た介護計画は、本人と家族に確認を頂いてプランとして実施しています。また、計画書と照らし合わせたモニタリングを行い、ズレが生じないように努めています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日行っている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じて行っている	事業所の提携している「うめざわクリニック」には、通い受診で支援が行われています。又、症状や専門科目に応じて国立相模原クリニックの他、専門医療機関の受診をして医療的支援が行われています。その他本人の希望で、提携医以外の病院にかかる際はご家族対応を原則としますが、受診については、日常生活情報など必要情報の提供を行い、診療結果の情報共有を行なって利用者の医療的管理と適切な医療支援が行っています。必要に応じて通院介助も行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	必要に応じて行っている		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて行っている	重度化した場合の方針については入居契約時に重度化・終末期ケアについて、事業所の出来ること、出来ない事含め家族・後見人に説明し、同意書を交わしています。医師または看護師が終末期と判断した時点で、希望を伺い、家族・ケアマネ・医師・看護師・事業所責任者との繰り返しでの話し合いで、種々選択肢を示しながら最善の方法を見出し支援を行っています。ホームでは終の棲家として終末介護を希望される本人・家族とは同意書を交わし看取り専門医の支援の下に看取り介護が実施されています。職員間にも共有があり、看取り介護の実績もあります	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1回と必要に応じて行っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回と必要に応じて行っている	ホームでは6回/年夜間を想定した火災並びに地震・水害の訓練を、入居者と共に避難誘導を行い、緊急連絡網の整備も行っています。非常用備蓄では食料・水・乾電池・衛生用品のオムツなども確保して管理し、設備ではスプリンクラー、火災自動通報装置等も設置され災害対策が講じています。地域との協力体制も構築されています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日行っている	入居者を人生の先輩として敬い、言葉遣いの乱れは不適切支援に繋がる事を職員が理解し、入居者一人ひとりの人格を尊重して、その方に合わせた言葉遣いを心がけて対応しています。着替えやトイレ誘導時には、他の人に聞こえないよう、声の大きさにも配慮しています。呼称は「さん」付けを基本としていますが、時には本人や家族の希望も取り入れて親しみを込めた呼び方で対応することもあります。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日行っている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日行っている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日行っている			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日行っている	食事作りでは、職員の作るメニューに入居者のリクエスト等も採り入れて食材を仕入れることもあります。調理準備では包丁を使っての「小口切り、刻み」その他「盛り付け、配膳・下膳・洗い」等、全員が何らかの形で関わることで、やりがいを持ってもらいながら能力の維持に繋がっています。調理方法でも夫々の方の体調に合わせた仕上げで調理し、時にはゲーム感覚を交えたジャンケンで順次好きな種類を選ぶパン食を取り入れるなど、さまざまな工夫をしています。時には外食（回転ずし等）に出かけたり、クリスマス等、季節の行事に合わせた食事も取り入れています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日行っている（3回）		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日行っている	代表者の熱い思いの下、水分摂取量と排泄チェック表で一人ひとりのパターンを把握し、声かけと見守りで、時間がかかっても、失敗したとしても、トイレでの排泄を促しオムツの無い生活実現に向けて支援しています。夜間に於いても同様の支援で経済的、精神、衛生的にも負担がかかるオムツ使用を無くす支援に注力しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日行っている	曜日・時間などを決めず、希望に沿って入浴支援を行っています。入浴は清潔保持のみならず、打ち身・あざ・湿疹などの発見がある事を踏まえて、拒む方にも決して無理強の無いアプローチを心がけてバイタルチェックと共に入浴を促し支援が行われています。季節にはゆず湯、菖蒲湯なども取り入れています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日行っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	必要に応じて行っている	散歩を希望する方が多く日々の外出には職員が対応して、天気のいい日には近くの相模川に沿った散歩コースを歩いたり、買い物に行ったりしています。車椅子の方にも同様に対応をして外出の機会を設けています。その他、1回/月は外食に出かけたり、季節に合わせて車外出等も企画立案して弁当持参で相模原公園などへ出かけています。職員の付き添いで、お酒の好きな方には、近くにある「一杯飲み屋」に職員と一緒に行って、その方の希望を叶える等の支援も行っています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じて行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて行っている			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日行っている	室内は行き届いた清掃と騒音や異臭も無く湿度・温度管理は職員によって清潔に保たれ、居間兼食堂の大きなガラス戸からの採光も良くとても明るい空間になっています。また、畳部屋には炬燵が用意され安らぎと寛が感じられる工夫がされています。壁面には皆で作成した季節感のある装飾と、行事時の写真なども全体バランスを考慮して飾られ家族等の来訪時の話題のきっかけ作りにもなっています。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	毎日行っている			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要に応じて行っている	使い慣れた馴染みの深い品物、お茶碗、箸、履物、家具などをお持ち頂く事を勧めています。馴染みのある今まで大切にしてきた、思い出の茶箆筒や椅子、鏡台、仏壇、家族写真、ぬいぐるみ等が持ち込まれ、馴染んだ生活拠点が演出されています。部屋にはエアコン・クローゼットが備えられていて、各人好みの設えで居心地よく過ごせる支援が行われています。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて行っている			

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム ぽっかぽか

作成日

平成28年12月16日

〔目標達成計画〕

有 先 順 位	項 目 番 号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具 体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	1	職員の入れ替わりによる能力不足	職員の能力向上	毎月の会議を主とした勉強会の実施	無期限
2	2	利用者不足	新営業方法の確立	受け入れ態勢の整え	無期限

(注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

(注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。